

自分の考えや思いを英語で伝え合うことに喜びを感じる児童生徒の育成をめざして

越ヶ浜中の
英語の取組

「英語の基礎体力」

小学校の英語教育は、基本的に「話すこと」「聞くこと」に特化していますが、今年度本校がめざしている生徒の姿も、「自分の考えや思いを英語で伝え合う」ことのできる生徒であり、授業の比重も「話すこと」に重きを置いています。しかし、英語で考え、話し続けることにはなかなか抵抗感もあります。そのため、昨年度までは話す活動を仕組むのも授業の10分～15分程度ということが多い状況でした。

今年度は、オールイングリッシュ・クラスで英語に慣れる取組もそうですが、話す活動の時間を多く確保することで、生徒たちに英語の基礎体力がつきはじめていくのではないかと思います。こうした教科への「耐性」を身につけさせることの大切さを、ここにきて改めて感じています。

「主体性」が「学力向上」の鍵！

主体性と学力は結びついているものと考えられます。教師の説明に「うんうん」と首を振って話を聞いていても、実はよく分かっていなかったということはよくあることです。定着を確認するためには、生徒が主体的にそれらをアウトプットする機会（活用場面）を設定しなければなりません。学力向上の課題をクリアするために、授業でもそれ以外の場面でも、2学期は生徒の自主性を高めるための試みをより意識して、小中足並みをそろえて行っています。

授業で学力を身につけるためのチェックポイント

◎次の4つを意識して授業を振り返ろう！

変容

1 今日の授業で「分かった！（できるようになった）」ことは何？

自分の考えの探求

2 だれのどんな意見に「なるほど！」「いいね！」と思った？

自分の課題の明確化

3 今日の授業で、「分からなかった」「疑問に思った」ことは？

知識の活用（生きた知識の獲得）

4 学んだ知識は生活のどんな場面で生かせそう？



小中で同じチェックポイントを掲げます！

2年生

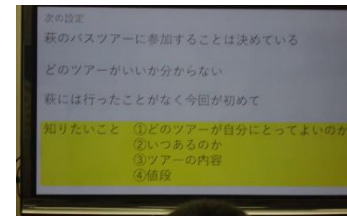
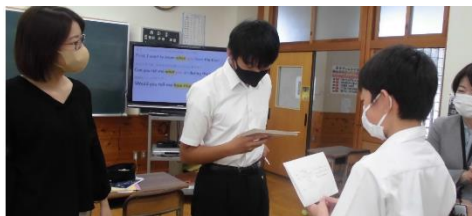
「話すこと（発表）」・・・教科書のテーマである「ホームステイ」について自分の考えをもち、英語で発表する。



キーワードのみを用いて、ホームステイについて自分の考えを発表します。作成したマインドマップをもとに話す英語を、毎時間友達に聞かせ合っています。最初に示したルーブリックに照らし合わせ、発表において自分が向上させたい項目を友達に伝えてから聞いてもらうようにしています。そうすることで、課題を意識した練習や、友達からのフィードバックを得ることができ、モチベーションにつながっています。回数を重ね、フィードバックを繰り返すうちに、自然と声量も上がり、気持ちに余裕が出てくると英語を話す表情も明るくなってきます。最終的には、タブレットを用いてキーワードのみを1枚のスライドにまとめ、全体の前で発表します。

3年生

「ツアープランについて知りたいことをたずねたり、説明したりすることができる。」



生徒が客とツアープランナーの役に分かれ、対話を繰り返しました。客の役割をする生徒は、単元の新出文法である「間接疑問文」を有効に活用しながら、「I want to join a tour. But I don't know which tour is good.」といった具合に知りたいことを尋ねていきました。教師は生徒の様子を観察し、全体にシェアリングしながらフィードバックしていきます。そしてペアを替えて繰り返すうちに、初めはうまく言えなかった生徒もだんだん言えるようになってきます。このように生徒の力を引き出していくには、教師の「観察力」や「粘り強さ」が大切です。

毎週こうした「話すこと」に特化した時間を設けて指導しているうちに、生徒達に1時間英語を話す「英語の体力」が身につけてきたように感じます。1時間が終わった後は、きっと脳の疲労感とともに充実感が溢れているのではないのでしょうか。